

燦 KIRARI

Vol. 48
Jan. 2022

編集 企画 広報室



作新学院大学
作新学院大学女子短期大学部

作新 民 日々に自らを新しく

作新学院大学女子短期大学部の実習体験談



短大実習の
詳細はこちら

作新学院大学女子短期大学部 幼児教育科では、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得が可能です。幼稚園や保育所等での実習を終えた学生の皆さんに、実習での学びについてインタビューしました。

幼児教育科2年 青木 花蓮さん

実習前にどのような準備をしましたか？

手遊びや絵本の読み聞かせの練習はもちろん、季節にあった幼児曲をピアノで弾けるように練習したり、各年齢にあわせた遊びを考える等の準備をしました。準備した中で、特に子どもたちに好評だったのは“鬼滅の刃”を用いた手遊びです。子どもたちの流行りをキャッチし、上手に遊びに取り入れることも大切だと感じました。

実習を通して学んだことを教えてください。

実習先の先生方は、子どもたちが伸び伸びと言動できるような環境作りをしていたり、子どもたちを受容する言葉かけを行っていて、子どもたちの発達を促す援助について実践的に学ぶことができました。実習中は失敗を恐れずに、様々な遊びを実践し積極的に子どもたちと関わることが重要です。子どもたちと関わることが、新たな気づきに繋がると学びました。

作短での学びはどのように役立ちましたか？

指導案を作成する際に、作短の授業で学んだ、各年齢の発達段階にあわせた遊びや音楽活動から、多くのヒントを得ることができました。その他にも様々な場面で作短での学びが活かされていると思います。



幼児教育科2年 岡田 姫来さん

実習前はどのような準備をしましたか？

実習日誌の書き方を復習し、実習中にスムーズに書けるように準備しました。また、手遊びや絵本の読み聞かせの練習をして、遊びのレパートリーを増やしました。

実習を通して学んだことを教えてください。

実習を通して一番大切だと感じたことは、子ども一人ひとりを理解し保育者同士で連携をとることです。保育者にとって、子どもの発達段階を理解し、子どもたちが主体的に活動できるような保育を展開することはとても大切です。保育者同士でコミュニケーションを取りながら連携し合うことが、子どもたち一人ひとりにあった援助や支援に繋がっていくのだと学びました。実習初日は不安と緊張でいっぱいでしたが、自分から子どもたちに積極的に声をかけることで、少しずつ信頼関係を築くことができたと思います。

作短での学びはどのように役立ちましたか？

作短の授業では、実際の保育を想定した遊びや音楽活動を行います。それは、実習中の指導計画立案にとっても役立ちました。先生方の丁寧なご指導で、子どもの予想される姿や援助の方法等を具体的に考えられる力がついたと思います。



幼児教育科2年 水田 優妃さん

実習前にどのような準備をしましたか？

一度目の実習前は、図書館で季節にあった絵本や、年齢ごとの絵本を借りて、読み聞かせの練習をしました。実習を終えて、手遊びのレパートリーを増やすことの重要性に気づき、二度目の実習前は、「幼児音楽」の授業で学んだ手遊びを振り返り、レパートリーを増やすことを中心に準備しました。

実習を通して学んだことを教えてください。

保育現場を経験して気づいたことは、保育者自身が活動を楽しむことの大切さです。例えば、自分が緊張して話していると子どもたちは静かですが、楽しんで話していると笑顔で答えてくれます。保育者の態度によって、子どもたちの反応が変わるのだと実感しました。また、子どもたちは身の周りの変化を敏感に感じ取っていて、子どもの目線に立つと多くの発見があることを学びました。こうした発見を子どもたちと共有し、遊びに活かしていけるような保育者になりたいと思いました。

作短での学びはどのように役立ちましたか？

実習前に、実習日誌の書き方や実習準備についての事前指導があり、落ち着いて実習に臨めました。またピアノの授業のおかげで実習中のピアノ演奏にも対応力がつきました。



幼児教育科の実習

1. 幼稚園実習

1年次の「幼稚園実習Ⅰ」（13日間）と2年次の「幼稚園実習Ⅱ」（10日間）で構成されています。1年次は見学・観察・参加実習からスタートし、2年次は専門性を高める部分実習・責任実習を行います。学生たちは実習を通じ、幼稚園の先生方や園児たちとふれあうことで、作短で学んだ知識・技術を確認し、それを現場で活用するノウハウを学んでいきます。また、仕事をするための厳しさや喜びも実感できます。

2. 保育所実習

1年次に11日間実施され、2年次にはさらに11日間の選択実習も用意されています。実習では乳幼児の生活や遊びを観察しながら、実際にふれあうことで、1日の生活プロセスを理解していきます。また、仕事の内容、チームワーク、勤務体制、保育環境、家庭や地域社会との連携などについても実践的に学んでいく中で、保育士の役割や責任を自覚できるようになります。

3. 施設実習

2年次に11日間実施され、さらに希望者には11日間の選択実習を履修できます。実習先は主に児童福祉施設や障がい児者施設などで、生活支援や学習支援、療育や社会参加支援など、施設保育士（保育所以外の児童福祉施設で働く保育士）としての業務や専門的な技術・技能を学びます。施設実習は授業で培ってきた福祉についての考え方を改めて確認する絶好の機会です。学生たちには自分から主体的に取り組む姿勢が求められます。



作短には、模擬保育室(写真)やピアノレッスン室など、保育者をめざす学生のための施設が充実しています。

作新学院大学の実習体験談



教員をめざす
学生へのサポート
詳細こちら

作新学院大学では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員免許状取得が可能です。
実習を終えた学生に、実習での学びについてインタビューしました。

※発達教育学科では小学校、中学校(国)、高等学校(国)、特別支援学校の教員免許状取得が可能。
経営学科では高等学校(商)の教員免許状取得が可能。

人間文化学部 発達教育学科3年 菱沼 理乃さん

(大学3年次に終えた小学校での実習についてインタビューしました)

実習前にどのような準備をしましたか?

担当科目を予習し、板書のまとめ方を考えたり、読みやすい字の書き方を練習したりしました。その他、新聞やニュースに目を通したり、小学校では何が流行っているかを調べたりしました。体調管理や生活リズムを整えることも意識しました。

実習を通して学んだことを教えてください。

実習中は、子どもたちにとって分かりやすく飽きない授業は何かと考えたり、休み時間に一緒に体を動かして遊んだり、自分から子どもたちと積極的に関わるように心がけました。素直な子どもたちと接するなかで、教師になりたいという気持ちの方がより強くなりました。

作新大の学びはどのように役立ちましたか?

所属する陸上競技部では、コミュニケーションを大切にしている、監督・選手・マネージャー間の信頼関係が築かれています。マネージャーの私は、選手が競技に専念できるような環境作りや声かけを積極的に行っています。このコミュニケーション力は、実習中に子どもたちに声かけを行う上で、とても役立ちました。



人間文化学部 発達教育学科4年 君島 琳久さん

(大学4年次に終えた中学校での実習についてインタビューしました)

実習前にどのような準備をしましたか?

授業範囲の予習や、具体的にどういった観点・手立てで授業を組み立てていきたいかについて事前に計画しておく等の準備をしました。その際、大学の講義の中で学習指導案を作成した経験が、授業の組み立てを考える上で参考になりました。

実習を通して学んだことを教えてください。

実際の教育現場を経験し、生徒はそれぞれ、考え方も価値観も全く違うことに改めて気づくことができました。実習先の先生方からは、生徒との関わり方、授業の組み立て方等、様々な指導を丁寧にしていただき、生徒との向き合い方について勉強になりました。将来は、生徒一人ひとりに寄り添い、頼りがいのある教員になりたいです。

作新大の学びはどのように役立ちましたか?

「国語科教育法」の講義で指導案の書き方を学び、授業理解の重要性を実感しました。また「漢文学」の講義は、実習中に「漢詩」の単元を扱う際、授業の構築に大変参考になりました。その他、教職実践センターの先生方から、挨拶の仕方やマナー等について、指導していただいたことも役立ちました。



経営学部 経営学科4年 吉川 泉水さん

(大学4年次に終えた高等学校での実習についてインタビューしました)

実習前にどのような準備をしましたか?

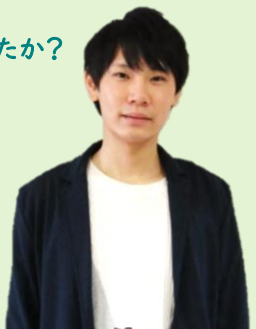
指導科目である「簿記」の内容を、実習校の教科書にしたがって最初から学び直しました。簿記では教科書や参考書によって用語の名称や、学習内容が異なることがあるので、改めて学び直すことで、教科書の理解をより深めて実習に臨むことができました。教科書の学び直しは、その後の教材研究にも役立ちました。

実習を通して学んだことを教えてください。

一番の学びは授業見学です。実習先の先生方の授業をたくさん見学させていただき、50分の授業をどのような計画で進めるか、新しい用語を指導する際はどのような説明や例が必要か、演習問題をどのように取り組むか等、多くを学ぶことができました。

作新大の学びはどのように役立ちましたか?

特に役立った学びは、模擬授業の実践です。指導案の書き方や板書する上でのポイント、指導上の留意点等、基本的なことから専門的な内容まで実践的に学ぶことができました。模擬授業での反省点をどのように改善するかによって、実習での授業の完成度が左右されると感じました。



人間文化学部 発達教育学科4年 西原 直輝さん

(大学4年次に終えた特別支援学校での実習についてインタビューしました)

実習前にどのような準備をしましたか?

事前に担当クラスの子どもたちについて、どのような障がいがあるのか、どういうことができ、どういうことが得意なのか、一人一人の特性について確認しました。

実習を通して学んだことを教えてください。

困ったときは周りの先生方にすぐ相談すること、例えば教室から少しでも離れるときは声をかけ合うこと等、先生同士で連携して子どもたちを見守ることの大切さを学びました。また、実習中はできるだけ多くの子どもたちと関わることを意識しました。最初は挨拶から始めて、少しずつ信頼関係ができると、子どもたちが自分のことを話してくれるようになりました。子どもたちは、一人一人実態は違っても、それぞれが良い個性を持っていると感じました。

作新大の学びはどのように役立ちましたか?

実習前の事前指導の講義で、授業を視覚的に行うことや、その日の授業内容を分かりやすく明示することの大切さを学び、実習中に実践することができました。また、障がいの特性について学び、子どもたちの反応に対して落ち着いて対応することができました。



作新学院大学

経営学部 (経営学科・スポーツマネジメント学科)
人間文化学部 (発達教育学科・心理コミュニケーション学科)
大学院 (経営学研究科・心理学研究科)



<https://www.sakushin-u.ac.jp/>

作新学院大学女子短期大学部

幼児教育科

<https://www.sakushin-u.ac.jp/sjc/>

